



みずほフィナンシャルグループ

みずほフィナンシャルグループは、銀行・信託・証券を自前で保有する唯一の邦銀グループである。今年7月には、みずほ銀行とみずほコーポレート銀行が合併する予定であり、『One MIZUHO 未来へ。お客さまとともに』をスローガンに、電子記録債権についてもグループ丸となってベストサービスを提供している。

「One MIZUHO」を 掲げ電子記録債権を 活用した決済サービス、 資金調達をグループ一丸 となって支援

一括決済スキームや
シンジケートローンの実績
を活かしニーズに対応

紙の手形に代わる有効な決済
手段として電子記録債権が注目さ
れている。

〈みずほ〉は支払企業の信用力
に依拠する決済スキーム（売掛金

決済）を15年以上も前から取り
扱っている。1997年に、ファ
クタリング方式による一括決済の
取り扱いを開始。同年、業界初と
なる、信託方式による一括決済ス
キーム「ノートレス」の取り扱い
も開始している。

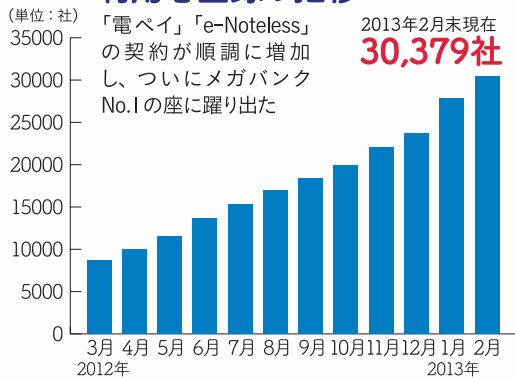
フロントランナーとして現在、
一括決済スキームで国内トップク

ラスの取扱高を誇る（2011年
度・同グループ調べ）。また、〈み
ずほ〉はシンジケートローン（貸付
債権）の組成でも、国内市場の約4
割のシェアを持っており（201
1年度・トムソン・ロイター出典）、
2010年の「みずほ電子債権記
録」設立以降は、電子記録債権を
活用したファイナンス一体型決済
スキームやシンジケートローンの
取り扱いを開始し、多様化するお
客さまのニーズに込えている。

電子債権記録機関の利用
契約者数が3万社を突破、
中堅中小企業をサポート

今年2月には、「みずほ電子債
権記録」の利用契約者数が3万社

利用者登録の推移



を超えた。メガバンク系記録機関
の中ではナンバーワンの実績を誇
る（同グループ調べ）。その背景に
は、これまで〈みずほ〉が提供し
てきた決済スキームがお客さまに
評価され、利用されてきたことに
加え、電子記録債権に対応すべく
商品性の改良を進めてきたことが
ある。

たとえば主力商品の一つ「みず
ほ電子債権決済サービス（愛称…
電ペイ）」は、一括決済スキーム（手
形レス商品）を電子記録債権の活
用によってバージョンアップした
ものだ。また、「e-Noteless」は、



みずほ電子債権記録
代表取締役社長
岸田 守



みずほ信託銀行
ストラクチャードプロダクツ営業部
部長
森井 裕一

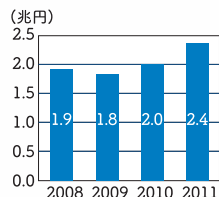


〈みずほ〉の電債ビジネスの強み

幅広いお客さま層・全国47都道府県をカバーする店舗網・シンジケート・ローン等での地域金融機関との連携

ファイナンス一体型決済スキーム組成額推移

ファイナンス一体型決済スキーム／〈みずほ〉組成額推移

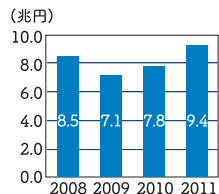


お客さまの声

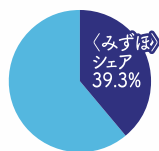
- 仕入先にもメリットがあるため、従来の手形支払先から多くの賛同を得ることができ、結果として手形を大幅削減できた（支払企業）
- 安定的に資金化サービスを受けられるので便利である。さらにファイナンス一体型スキームの利用が拡大することを期待している（納入企業）

シンジケートローンシェア

国内シンジケートローン／〈みずほ〉組成額推移



国内シンジケートローンブックランナーシェア（2011年度）



電ペイはみずほ銀行、e-Notelessはみずほ信託銀行、でんさいネットはみずほ銀行およびみずほコーポレート銀行、電シローはみずほコーポレート銀行が提供

電子記録債権を活用することによるメリット

安全性
+
利便性
+
流動性
の向上

ファイナンス一体型決済スキーム

電ペイ

e-Noteless

- ✓ 手形削減（印紙税負担軽減）や事務リスク削減ニーズに対応
- ✓ 納入企業の円滑な資金調達に寄与

手形代替商品

でんさいネットサービス

- ✓ 手形の代替、安全性向上

高流動性シンジケートローン

電シロー

- ✓ ローン債権譲渡の利便性、法的安全性の向上により、ローン債権売買市場を活性化
- ✓ 資金調達時のシャープなプライシングを実現

信託方式による一括決済スキームとして業界標準となった「ノートレス」の電子記録債権版である。「電ペイ」および「e-Noteless」のいずれも、印紙税といったコストや手形発行・管理といった事務手続きの削減、円滑な資金調達が実現するスキームとして、支払企業、納入企業の双方から好評を得ており、製造業や小売業な

どの業種を問わず、幅広く採用されている。〈みずほ〉は、「電ペイ」や「e-Noteless」といったファインアンサー一体型決済スキームを提供することで決済・資金調達の円滑化という面から、これらの企業を強力にサポートしている。みずほ電子債権記録の岸田守社長は、「需要の高まりにしっかりと応えるためにも、安全で安

「One MIZUHO」のもと、きめ細かなサポート、商品開発を進めていく

みずほ信託銀行ストラクチャードプロダクツ営業部の森井裕一郎は、「『ノートレス』はすでに14万社のお客さまにご利用いただいています。多種多様なニーズをお持ちのお客さまの立場に立つため細かなサポートには自信を持っています」と話す。

〈みずほ〉では、お客さまの声にこたえるサービスの開発も積極的に行っている。「でんさいネット」に関しては、仮想口座を利用した売掛金等の消込事務合理化の仕組みを開発し、他行にはないサービスとしてお客さまから好評を得ている。また、ニーズに応じ「電ペイ」・「e-Noteless」との併用提案にも対応しており手形レス化へ

心してご利用いただける金融インフラを提供するのが当社の使命です。引き続き、システムの強化に努めるだけでなく、災害対策などバックアップ体制についても、これまで以上に力を入れ、新しい金融インフラをしっかりと根付かせて行きたい」と語る。

のサポートも万全だ。

日系企業の海外進出に対応したサービスについても、昨年7月には邦銀で初めて中国においてインターネットベースの電子手形サービスの取り扱いを開始、他のアジア諸国への電子記録債権の展開についても調査を始めている。

このように〈みずほ〉の強みは、お客さまのニーズを先取りし、グループが一体となって商品開発・提供を実践できることだ。

みずほ銀行ストラクチャードファイナンス営業部の酒井秀晃部長は、「One MIZUHO」の旗印のもと、グループ内の連携をさらに強化し、お客さまのニーズにこたえる安全性、利便性の高いサービスをフルラインナップで提供していきます」と力強く語る。

これからも〈みずほ〉のきめ細かなサービスが利用者の支持を集めていくのは間違いないだろう。



みずほ銀行
ストラクチャードファイナンス営業部
部長
酒井 秀晃

One MIZUHO
未来へ。お客さまとともに

MIZUHO

みずほ銀行
みずほコーポレート銀行
みずほ信託銀行